

新駅「まつもと町屋駅」



高架を走るえちぜん鉄道

9月27日、福井の公共交通の景色が見せました。福井から勝山方面とあわら・三国方面への2つの路線を持つ「えちぜん鉄道」です。どのように景色が変わったかというところ、えちぜん鉄道の始発駅である福井駅から2つの路線が分かれる福井口駅間1・5キロメートルのうち、福井駅と新福井駅を含む約800メートルが高架化されました。えちぜん鉄道の高架橋は2018年秋ごろの完成予定ですが、先行整備された北陸新幹線の高架橋を間借りするかたちで暫定的に仮設の線路と駅が設置されました。これによって当該区間の地上にあった駅が高架上に移り、行き来する電車は高架上を走ることとなりました。地上から高架上を走る風景へ変わったことは、福井の街中の風景に変化をもたらすものとなりました。

新しく高架駅となった福井駅から乗車し、高架区間を走るえちぜん鉄道に乗りしてみました。

【乗車体験記】

は違った車窓を楽しめるのは新鮮なものとなりました。

新駅「まつもと町屋駅」の設置

先にも述べたように、高架駅は北陸新幹線の高架橋を間借りするかたちで設けられています。JR福井駅東口を出てすぐに、えちぜん鉄道福井駅があります。高架駅となっているため、2階建て相当の高さとなっています。島式2線のホームから、三国方面、勝山方面の電車が発着しています。福井駅から、新福井駅までは、高架上を走ることとなりますが、高架を走る区間の車窓からは福井駅周辺を一望できる景色となりました。

一部区間が高架化され、運用がはじまった9月27日は、えちぜん鉄道にとってはもう一つ記録に残る日となりました。

それは、新駅「まつもと町屋」駅が設置されたことです。

新福井駅を出た電車はそのうち福井口駅へ向かう中で、高架を下り地上を走ることとなります。短い区間ではあるものの、これまでと

まつもと町屋駅は三国芦原線福井口駅から西別院駅の間に設置されました。

新福井駅を出た電車はそのうち福井口駅へ向かう中で、高架を下り地上を走ることとなります。短い区間ではあるものの、これまでと

新駅ができるまでは、福井口駅から次の駅である西別院駅までは1・6キロメートルの距離がありました。

これに対して、市内中心エリア内

えちぜん鉄道高架化と



まつもと町屋駅を出発する電車

他の駅間距離はおおよそ0・6～0・8キロメートルであるため、福井口駅～西別院駅間の1・6キロメートルの駅間は比較的長いものだと言えます。

このような中で、福井口駅と西別院駅の間にもまつもと町屋駅が新設されたことにより、福井口駅からまつもと町屋駅間の距離は1キロメートルに、まつもと町屋駅から西別院駅間の距離は0・6キロメートルとなり駅と駅の間が短縮されました。

都市部において駅間の距離が短縮されたことは、地域住民をはじめとする利用者の利便性の向上が期待できます。

【新駅体験記】

まつもと町屋駅は、松本小学校から徒歩5分程度の距離で、県営住宅町屋団地のすぐそばにあり、住宅地の中に設置されています。

ホームへの入り口は2か所あり、東側には階段があり、西側にはスロープが設けられていて、バリアフリーに対応している駅となっています。

新駅設置以前のことを想像すると、この地域から市内中心部あるいは郊外部への移動には、バスを利用するか、距離がある既存駅へ行くしかありませんでした。

この新駅の設置によって地域住民の移動利便性の向上が図られ、えちぜん鉄道利用者の増加が期待できます。



高架駅に停車中のえちぜん鉄道(右側がJR福井駅)

- ① 新駅設置個所の南側には、県営町屋団地があり、また、北側の大願寺地区は交通空白地帯となっており、周辺住民の新駅利用が期待できる。
- ② 新駅から福井駅までは初乗り運賃(150円)で乗車できるため、中心市街地への誘引効果が期待できる。
- ③ えちぜん鉄道の高架化に伴い、平成27年度に福井口仮駅が移転し、松本地区の利用者は、交通量の多い県道128号線を横断しなければならなくなる。新駅から乗車することで、利用者が交通量の多い道路を横断する必要がなくなる。

このように、新駅設置によって利用者・地域住民の利便性が高まることが大いに期待されています。

また、えちぜん鉄道の利用者が増加することによって、えちぜん鉄道からの乗り継ぎで他の公共交通機関(福鉄や市内バス)を使う利用者も増え、福井の公共交通が活性化していくことを期待したいと思います。

(編集部 中村)

「福井のママの会」



○ ヤング 有希子さん (福井市在住)
○ 清水 雅美さん (福井市在住)

◆福井でママの会結成のきっかけは？

ヤング 7月18日に、落合恵子氏の提起に基づいて開催された安倍政治を許さない全国一斉アクションが県内であった際に、福井でも何かアクションを起こそうよという人たちが集まってFacebook上でチャットを通じて数名で立ち上げたのがきっかけです。

清水 私たちが起こしたアクションの一つの「紅茶けんぽうかふえ」では、紅茶を飲みながら9条の平和主義、13条の基本的人権の尊重などをはじめとした憲法について考える場として開催しました。

ヤング 結果、とても多くの方に参加してもらったんですね。参加者からは行って良かったというフィードバックが多くありました。

福井のママの会のコメンタリーは、子育て中のママだけではなく、子育てが一段落した母親の方もいます。Facebookで福

井のママの会のページがあるので、ぜひ見ていただいで興味を持って参加してもらえたらうれしいですね。

◆今の社会・政治情勢について感じていっていること

清水 今回の安保法制に関して言えば、このまま突き進んだら、この国は本当に大変なことになっ

てしまうという危機感を持っています。

それを他の皆さんはあんまり不安視していないのかな。もっと関心と想像力を持ってもらいたいなと思っていますね。

ヤング この状況が進んで行ってしまうと、南スーダンでの自衛隊による駆けつけ警護が始まって、その中で衝突が起こって、自衛隊の方に犠牲者が出てくるのではないかとこのことを大変心配しています。そして、究極的にはこの国も標的になりかねない。そんな状況にならないようにするためにも、私たちが声を上げていく必要があると思っています。

清水 多分、多くの人は、自分に直接的に関係があるかどうかに関心があると思うんですね。

安保のことについては、私は関係ないわっていう意識ではなくて、それが私たちの生活と密接に関わっているんだということをいろんな形で発信していかねればいけないなって思うんですね。

◆どんな活動を行ってきましたか？

ヤング 8月には福井駅前でスタンディングを行いました。こういった活動を続けていくことは大切だなって感じました

清水 10月には憲法クッキーの販売会を開催しました。ここでは、クッキーに憲法9条の9、13条の13という数字をデザインしたクッキーを販売しました。多くの来場者の方から、「クッキーに書かれた数字はどういう意味なの？」という質問をたくさん受けました。その都度、「これは戦争放棄の憲法9条の9だよ。」といったように説明すると、子どもさんやお母さんの興味深そうな反響があり、いいインパクトがあったなって思います。

ヤング 福井のママの会で9月に県選出の各国会議員の県内事務所に向き、各議員に宛てたメッセージを渡してきました。申入れの際に應對した事務所の方からは、「実際に事務所に来て思いを伝える方は初めて」だと聞きました。申入れの際のアポイントや面談時にはとても勇気が要ることでした



ママの会で作成した戦争反対のプラカードを掲げる清水さん(左)とヤングさん(右)

「安保関連法に反対



ママの会で制作・販売した憲法の条文番号をアレンジした憲法クッキー

が、やって良かったと思います。
清水 各議員事務所への申入れの際にママの会で作成した小冊子に書かれているメッセージはどれも母親の切実な思いが詰まっています、胸を打つものばかりでした。ね。ちょうど自衛隊の市内パレードがあった時期に近かったため、不安

になったというメッセージもありました。子どもを何としても守らなければならぬといった母親の思いが相手方に伝わったと思います。
ヤング 9月に福井市内で行われた自衛隊パレードにもママの会としては反対のプラカードを掲げて

意思表示してきました。私は東京にいたころは自衛隊パレードは見ることがなくて、縁遠いものだと思っていたけど、福井に来て自衛隊パレードを数回見たんですけれど、率直に怖いと感じました。

◆平和の大切さについての思いは？

ヤング 実際に私たちは戦争を経験したわけじゃないけど、世界のあちこちで内戦や空爆が行われているニュースを聞くと胸が痛みますよね。そして、今も地球のどこかでそういったことが起こっている異常さの一方で、日本は戦後70年間平和を守ってきたということ

はすごいことだと思うんです。こういうことを広げていく上では、メンタリテイ的にも自立して一人一人が政治に対して思いをぶつけていくことが大切だと思うんです。

感じていく危機感をアクションにつなげていくまでの距離感をどうやって縮めていくかという思いがベースにあってママの会は活動を続けてきました。11月には「憲法カフェ」を開催しました。

清水 私の父親は、終戦時は16

歳だったのですが、終戦の際に父は悔しいとか、悲しいとかいった感情ではなく「僕たちは国に騙されていたんだ」と思ったそうです。つまり、自分で感じることに、考えることが大事なんだなって思うんですよね。

◆今後のママの会についての行動は？

ヤング これまでのいろんな行動に参加してきた中で、若者の団体と連携した行動も行ったりしていますし、新たなチャンネルを通じて活動していきたいなとも思っています。

清水 他県とのママの会との交流という意味では、今後石川県のママの会の方々とアイデアの交換やイベントの参加を通じて広げていきたいと考えています。

お忙しい中ありがとうございます。

(編集部 中村)